

Life
Support
TEDAKO

QSK

令和4年10月秋号 No.239 発行部数 3,000 部
NPO 法人ライフサポートてだこ 代表/嵩原 満
〒901-2126 沖縄県浦添市宮城 3-13-12
Tel. 098-875-2557 Fax. 098-875-2666
E-mail: lstedako@yahoo.co.jp HP: <http://www.lstedako.com/>

ひだまり通信

夏



祭



い



小規模多機能ホームあん



○秋晴れの心地よい季節になりました。まだまだ暑い沖縄ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。
○あんでは夏祭りを行いました。準備をみんなで行い、懐かしい遊びや利用者さんの食べたい食事等々、今年も愉快地夏をのりこえました！
○今年もみんなで沢山行事ごとも作って行きますよ！！

あんの様子を
ご覧ください♪

YouTube



あんでは電話では伝わらない小規模多機能ホームの魅力を体験出来ます。どなたでも大歓迎。ご希望の日程に合わせて現職ケアマネが全集中でご案内いたします。お気軽にお問い合わせください。

小規模多機能ホームあん 098-988-0733 担当：ノダ、宮城

こっこだけのほ・な・し

皆さんはポケジェニックをご存じでしょうか？世界中で大人気の“ポケモン”が北谷町美浜の壁などに描かれていて一緒に写真を撮れる素敵なスポットなのです！！これは行くしかない！と言うことで児童たちと全スポットで写真を撮ってきました。どこにあるか皆で探しても盛り上がりました。今回はその一部を載せています。皆さんも是非撮りに行って下さい！オススメです！

職員も楽しんでます！



みんなで“はいチーズ！！”



インスタやってます！是非見に来てください！

♪ スマイル通信 ♪ from テイサービスセンターえん

♪ ♪ 楽しかった夏祭り ♪ ♪

夏祭りならではのゲームも！！🎮🔥



お昼はお寿司！🍣



構えも完璧！！🍉



2 日間に渡って行われた毎年恒例の夏祭り！大盛り上がりの大成功で幕を閉じました～🌻

射的やすいか割りなど THE 祭りなゲームから寿司パーティーまで楽しい夏の思い出作りが出来て良かったです😊



会 員 募 集

NPO法人ライフサポートてだこは、「福祉を通して沖縄の幸せを創造し続けます。すべての人が愛する街でいつまでも自由に安心して暮らせるようお手伝いします。」という経営理念のもと活動しています。私たちの活動を応援して頂ける方を募集します。

- 正会員のお申込み (7,000 円)
- 賛助会員のお申込み (3,000 円)

～お問い合わせはこちらまで～

F A X : 098-875-2666

メール : lstedako@yahoo.co.jp

お知らせ

☆☆ 求人募集 ☆☆

主任介護支援専門員、介護支援専門員、
保健師・看護師、社会福祉士
勤務時間：8時30分～17時30分
休日：土・日・祝日・その他
賃金：205,000 円 ～ 300,000 円
(交通費別)

いつか居宅介護支援(ケアマネ)で起業を
考えている方も一度遊びに来てくださ
い！！

※↓こちらも募集してます↓※

☆児童デイサービスっこ 児童指導員
☆小規模多機能ホームあん 介護士
☆デイサービスセンターえん 介護士
お問い合わせ：098-875-2557 (泉水)

ていーだカフェ☕

(認知症のことや介護など交流の場)

10月22日 土曜日

(10:00~12:00・14:00~16:00)

場所・えんカフェ(浦添市宮城 3-9-18)

令和4年度から毎月第4土曜日に開催
いたします。認知症のことや高齢者介
護の事など、一人で悩んでいませんか？
話すことで気持ちが楽になったり、解
決の糸口が見つかるかも！ぜひ1度お
こし下さい。事前予約もOK！

(098-875-2557・よなは)

和顔愛語・起きて半畳寝て一畳

ソファに並んで腰を下ろしテレビを観ていた祖母が不意に声をかけてきた。

父方の祖父母はすでに他界しており、母方の祖父は私が1歳のときに亡くなったので、現在は大正12年11月27日生まれ之母方の祖母（以下：おばあ）だけが健在である。おばあはどんな時でも私の絶対的な理解者で、親に「ダメ！」と言われてもおばあの家へ転がり込めば好転することは茶飯事だった。電話をかけてきては「今すぐ来て！今すぐよ！」と一方的に用事を申し付け、家に行くとき必ず小遣いを握らせる。「あるから大丈夫だよ！」と拒否する振りをしながら財布を差し出すと中身を確認し追加するおばあ。そんなおばあが転倒し右前腕を骨折した。利手の右腕を固定したままの生活は何かと不自由だろうと私の実家で生活するようになった。私の休日は、おばあと一緒に外出するか、並んでテレビを観ることを日課として時間が経過していった。2ヶ月が過ぎ、ぎこちなさは残るも右手の動く範囲も大きくなり、一人で活動する時間も増え安堵していた頃、いつもと同じ休日のように並んで腰を下ろしているとおばあが立ち上がり「これ、あんたに返そうとずっと持っていたけれど、なかなか返す機会がなかったからさあ…お守りにしていたさあ…」とカバンから青いポチ袋を取出した。それは、私が社会人一年生となった報告代わりに初給与で渡した、おばあへの小遣いだった。御祝儀袋に入れる額としては小さく、その上なんか偉そうで、照れくさく、与える側になろうとは全く考えてなかったため、どう手渡そうか迷っていた。結局時期はずれではあるが、手近にあった行きそびれのポチ袋に入れ手渡した。もらった小遣いは、かなりの数、かなりの額だ。大した額も入っていないポチ袋を、様々な想いとともにお守りとしてカバンに忍ばせていたおばあに対し、もらった小遣いは全て使途不明な運用をしていた自身を恥じた。それと同時にお守りを返還しようとする所作を確認したとき、私がお守りを受け取った瞬間、ラッチボルトがストライクを弾く歯切れのよい静かな音と共におばあがいなくなってしまうような気がしてそれを視界に入るだけで胸がざらついた。現実的にありえない現象だと認識しているが、その時は何故かそんな非現実的な想いに捕らわれた。何かを伝えないといけないという衝動に駆られ腕(もが)くが、氾濫した想いで心が千々(ちぢ)乱れ、冷静を装い絞り出した声は「そのまま持っていて…」が精一杯だった。翌日、いつもと変わらない日常とわかっているが、おばあの安否を確認して心なでおろす。そして安心を吸い込んで肺を満たし「今日も元気で存在(いる)みたいだね！」と精一杯の嫌味を詰込んだ挨拶をぶつける。そんなおばあの令和4年は、転倒し一時は車いす生活となるが、現在は元気に二足歩行している。一緒に外出する機会は少なくなり、テレビ正面の指定席に腰掛けるおばあと会話する私の声量も、だいぶ大きくなってきたが、いつまでもそこにいてほしいと心から願う。9月の第3月曜日は敬老の日だ。新しいお守りと日ごろの感謝を伝えるのもいいが、面と向かって伝えるのもやっぱり照れくさい。さて、どうしたものか…

最新情報はライサポホームページをCHECK！⇒⇒⇒



LINEはこちら⇒⇒

